

# メッセージ

Message

## 日本製薬工業協会 会長 あいさつ



日本製薬工業協会 会長

### 手代木 功

私たち日本製薬工業協会（製薬協）は、医療用医薬品の研究開発を通じて、日本および世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目指す、研究開発志向型製薬企業69社が加盟する団体です。1968年の設立以来、製薬協は「患者中心の医療の実現」をモットーとして、より有用性の高い医療用の新薬を開発し提供することを通じて、世界の医療に貢献してきました。

今年3月11日に東日本大震災が発生しましたが、その直後から日本医師会・医薬品卸連合を始めとする関係各位のご協力を得て、製薬協として、いち早く被災地で必要とされる医薬品をお届けしました。また、会員各社も、一日も早い復興を願い、義援金をはじめさまざまな形の支援を行っています。今回の経験から、製薬協は今後も起こりうる大規模災害に備え、医薬品の供給や情報収集・提供に関するマニュアルの整備と、関係各団体とのネットワーク強化策づくりを進めています。また、製薬工場被災による医薬品不足についても対応し、被災地のみならず、すべての患者さんへ向けた、高品質な医薬品の安定な供給体制づくりに努めています。

製薬産業は、政府の「新成長戦略」において、「ライフイノベーションによる健康大国戦略」を担う重要な産業として「健康長寿社会」の実現を牽引し、世界市場に通用する国際競争力の高い産業に発展することが期待されています。私たちは、世界的に見ても高い水準にある研究開発力の更なる向上を目指し、画期的な新薬やアンメット・メディカルニーズ（未だ有効な治療法がない医療ニーズ）を満たす医薬品の創出につなげて、我が国のみならず世界の医療に貢献していく所存です。

一方、グローバル化が進むに従い、世界的な視野からみた企業の社会的役割が求められるようになっていきます。法令の遵守は言うまでもなく、社会から期待され、信頼される企業として、高い倫理観をもって社会的使命を果たしていかねばなりません。国際標準化機構は、2010年11月に「組織の社会的責任（SR）」に関するガイダンス文書として、「ISO26000」を発行しました。製薬協は、医療関係者等との間で透明性の高い企業活動を推進するための「透明性ガイドライン」を策定し、また「企業行動憲章」、「コンプライアンス・プログラム・ガイドライン」を改訂するなど、会員各社が積極的な取り組みを推進できるような支援体制を整えています。

また、製薬協は、地球環境問題をCSRの重要な課題のひとつとして位置づけています。具体的には、化学物質管理、地球温暖化防止、廃棄物管理などについて、業界全体で自主的な取り組みを継続して進めています。中でも、地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>排出量については、「2020年度に2005年度比で23%の削減」、廃棄物については、「2015年度に最終処分量として2000年度比で65%の削減」という具体的な数値目標を掲げ、会員各社による省エネルギーや燃料転換によるCO<sub>2</sub>削減活動、省資源、廃棄物対策を積極的に推進していきます。

製薬協は、今後も「世界の人々の健康と福祉に貢献する産業」、「日本の経済成長に貢献する産業」を目指すと同時に、環境・安全に関する活動を積極的に推進し、患者さんを始めとする様々なステークホルダーの皆様との対話を通じて、社会からの期待に応えてまいります。